

2025 年度学生海外派遣事業報告書

作成者：秘書課 地域協働係 ちゃむ

作成日：2025 年 11 月 19 日

同行職員： 秘書課 秋葉潤、ずおん ちゃむあいん

学校教育課 大塚珠世

事業目的

友好都市である旧ラックズオン県との交流活動の一環として、学生交流事業を 1 回目に続いて 2 回目を実施しました。本町の若者に海外の人、環境と触れて日本との共通点・相違点を感じ、今後の進路を見る観点が広がることを目的としました。

行き先：ベトナム国ラムドン省・ホーチミン市 期間：2025 年 8 月 19 日～24 日

参加者数： 高校生 6 名、大学生 1 名、 大学院生 1 名

概要

* 日程：別紙の日程表をご参照ください。

* 出発前：事前研修 2 回実施、現地学生との交流内容について話し合い、簡単なベトナム語講座を行いました。



*学生が取り組んだ活動内容：

・ダラット大学で現地大学生と日本語で交流、民族村見学

日本語を学習している大学生と外国人が受験している日本語能力試験問題を解き、その後連想ゲームという形で日本語を使って交流を行いました。



その後現地大学生と一緒に少数民族村のクーラン村に訪れました。雷雨が降り室内で人狼ゲームを通じて交流を行いました。言語の壁を越えて楽しく有意義に時間を使いました。



・ランビアン高校の現地学生と料理作り体験、交流

3グループにわかれ、通訳を介してお互いに自国の料理を紹介しながら一緒に作りました。出来上がった料理を盛り付けて学校の先生と人民委員会の方と昼食を取りました。

午後はジェスチャーゲームを行うなど交流の場を設けました。言語の壁を乗り越えて協力し合い力を発揮しました。





・戦争博物館で平和の学習

博物館で戦争遺跡を見て、戦争の恐ろしさと平和のありがたさを再び学びました。





・選択学習：

① アオザイ試着体験



② 現地料理作り学習



③ ノンラー絵付け体験

| 日 時 | 内 容 |
|---------|--|
| 8/19(火) | 移動:八千代町 ^{バス} →成田 ^{飛行機} →ホーチミン ^{飛行機} →ダラット ^{バス} |
| 8/20(水) | ダラット大学日本語学科の学生と交流 |
| 8/21(木) | ランビアン高校の学生と交流 |
| 8/22(金) | ラックズオン ^{バス} →ダラット ^{飛行機} →ホーチミン ^{バス} ホーチミン市内視察 |
| 8/23(土) | ・選択学習(ノンラー絵付け・アオザイ試着・料理) ・選択学習(ノンラー絵付け・アオザイ試着・料理) |
| 8/24(日) | 移動:ホーチミン ^{飛行機} →成田 ^{バス} →八千代町 |

| 氏名 | 学校 | 学年 |
|--------|----------------------------|----|
| 生井 太基 | Chang Gung University(大学院) | 2年 |
| 鴨目 楓子 | 神田外語大学 | 2年 |
| 中井 睦倅 | 土浦日本大学中等教育学校 | 2年 |
| 大里 咲翔 | 常総学院高等学校 | 2年 |
| 八城 遥斗 | 下妻第一高等学校 | 1年 |
| 大久保 壮真 | 下妻第一高等学校 | 1年 |
| 仲内 彩乃 | 下妻第一高等学校 | 1年 |
| 寺田 椿 | 八千代高等学校 | 1年 |

Chang Gung
大学大学院
生井 大基



今回、八千代
町青少年海外

派遣事業の一員として、8月19日から24日までの6日間にわたりベトナム研修に参加させていただきました。日本を出発する時には、初めて訪れる国への期待と緊張が入り混じった気持ちでしたが、日々の活動を通して多くの学びと貴重な体験を得ることができました。その中でも、特に印象に残っているのが、選択活動として参加したノンラー絵付け体験と、現地の高校や大学での文化交流です。

ノンラーとは、ベトナムの伝統的な笠帽子で、農村部を中心に今も生活の中で広く使われているものです。そのノンラーに自ら



絵を描く体験を通して、ベトナムの人々が大切に受け継いできた文化の一端に触れることができました。最初は大きな真っ白なキャンパスのように見え、どのように表現すればよいか迷いましたが、現地の方が温かく指導してくださり、安心して取り組むことができました。絵を描いていくうちに、自分の思いを形にする楽しさと同時に、伝

統工芸
を守り
続ける
人々の
誇りや
努力を
感じ取



りました。完成したノンラーは、私にとってただの工芸品ではなく、ベトナムでの学びや交流の象徴となりました。

また、研修中にはダラット大学の日本語学科の学生や、ランビヤン高校の生徒たちと交流する機会がありました。彼らが日本語を学ぶだけでなく、日本文化についても積極的に語ってくれたことが嬉しく、交流をより深めるきっかけとなりました。



言語の壁はありましたが、互いに笑顔で言葉

・英語を交えながら心を通わせることができましたと思います。国や文化は違っても、未来に向けて努力する姿勢や友情を大切にする気持ちは共通しており、そ



ここに人と人とのつながりの強さを実感しました。



さらに、ホーチミン市で訪れた戦争証跡博物館やクチトンネルでは、ベトナムの歴史に直接触れることができました。平和の大切さを改めて考えるとともに、現代を生きる私たちがどのように国際社会と関わり、未来を築いていくべきかについて深く考える機会となりました。日常生活の中では感じにくい視点を得られたことは、この研修の大きな成果だと感じています。



今回の研修を通じて、ベトナムという国を知識として知るだけでなく、実際の生活や人々の温かさを肌で感じられるようになりました。街を歩き、人々と話し、文化に触れることで、本やインターネットから得る情報では分からないリアルなベトナムの姿を知ることができました。同時に、自分自身の視野が広がり、国際社会で生きる一人の人間としての責任を強く意識するようになりました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった八千代町役場の皆さまに心から感謝申し上げます。事前準備から現地での安全な行程管理に至るまで、細やかに支えていただいたおかげで、私たちは安心して研修に臨むことができました。この研修で得た経験や学びを、今後の生活に生かし、国際的な視野を持った人間へと成長していきたいと思います。本当にありがとうございました。





神田外語
大学
鴨目楓子

私はベトナム研修で、たくさんの優しさと人の温かさに触れることができました。

まず、1日目にホーチミンからダラットに向かう飛行機の出発が、予定よりも約3時間遅れるというハプニングがありました。怒ってもよさそうな状況の中、

私たちは「待ち時間で何かできることはないか」と考え、人狼というゲームをしました。それは、まだお互いをあまり知らない私たちにはとても有意義な時間で、そこで一気に仲を深めることができました。

また、似たような場面が2日目にもありました。ダラットの大学生とクーラン村に向かった際、途中から大雨が降ってしまい、外に出られない状況になりました。しかし、そこでもダラットの大学生と一緒に人狼をして、日本語で貴重なコミュニケーションを取ることができました。普通に話すよりも、人狼というゲームを通して、楽し



みながら交流することで、さらに距離が縮まり、仲良くなることができました。

また、ダラットの学生たちは、私たちに合わせて-自国の言語ではない-日本語を一生懸命、なるべく伝わるよ

うに話してくれました。そのような優しい方たちと関わったことが、とても嬉しかったです。きっと、みんなが怒ったり、気分が少し下がってしまいそうな場面でも、柔軟に対応し、楽しみを見出せる優しさと力を持っていたからこそ、あのような温かい時間が生まれたのではないかと思います。そして、そんな優しい学生たちが日本に興味を持ち、日本語や日本文化を学んでくれていることにも、とても嬉しく思いました。



さらに、私が一番書きたかったのは、引率の

方々のことです。チャムさん、潤さん、珠世先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。特にチャムさんは、現地の方と直接やり取りして企画を立ててくださったり、ホテルでも電話で予定を確認してくださったり、日本語とベトナム語が通じないときには通訳をしてくださったりして、大変だっ

たと思います。それでも、「大変だよ
ね?」と私が尋ねたときに「大変じゃない
よ! 楽しい!」と笑顔で答えている姿を
見て、本当にチャムさんがいてくれたから
こそ、このベトナム研修を無事に、そして
楽しく終えることができたのだと実感しま
した。チャムさんの、いつも笑顔で周りま
で明るくしてしまう人柄が本当に素敵で、
大好きです。



潤さんは、いつも私たち学生と同じ立場に
立って気軽に接してくださり、面白い発言
で笑わせてくださって、常に楽しい雰囲気
を作ってくださいました。研修を通して、
潤さんは本当に優しい方だと感じました。
珠代先生は、私たちに常に気を配ってくだ
さり、毎食事の前におしぼりを全員分配っ
てくださったり、困っているときには助け

てくださいました。



他にも、有田さんや現地のホテルの方々、
そして両親など、さまざまな人たちが支え
てくださって、このような貴重な体験をす
ることができたのだと思います。このよう
な方々のもとでベトナム研修ができたこと
を、本当に嬉しく思います。

今後は、ベトナム研
修で得たたくさんの
優しさを思い出しな
がら、自分の生活の
中でも常に優しい心
を持ち、人と人との
関わりを大切にしな
がら過ごしていきたい
と思います。





土浦日本大学
中等教育学校
中井睦倅

私は今回のベトナム研修で、ベトナムへ初めて行くことになり、実際に行ってみて、ベトナムは私が想像していたこととは違う点が多くあり、そのどれもが私にとってとても新鮮で価値のあるものでした。

今回、ベトナムへ行き、最初に感じたことは、ベトナムの空気にはさまざまな要素が混ざり合った、かなり独特な匂いが漂っているということでした。これは単に「暑くて湿った匂い」というだけでなく、ベトナム特有の食文化や生活習慣、大気の状態など、さまざまな要素から生まれたものであり、まず日本では感じることのできないものでした。中でもとても強烈な匂いを放つ



ていたのが、ベトナムの調味料であり、それまで見たことのないような調味料はどれもとても特殊な匂いで、最初はその匂いに慣れず、食べるのに苦労しました。

また、ベトナム研修に行く前まで私は「ベトナムは常に蒸し暑い」「日差しが強くて肌に刺すような暑さ」だろうと思っており、日傘や小型の扇風機は必須かな、など

と考えていました。しかし、実際はそれほど暑くなく、むしろ日本より快適に過ごすことができました。帰国後、私が通っている学校の地理の教員にこの話をしたところ、「ベトナムのような赤道付近の国は一年中暑い代わりに、せいぜい 30℃前後であり、日本のように 40℃を超えることはない」と教わりました。私は勝手にベトナムはものすごく暑い国だろうと、ろくに調べもせず決めつけてしまっていたので

そして、日本に帰国した後に家族や友人からされる質問の多くが「ベトナムは暑かった？」というもので、そのたびに訂正していました。しかし、その回数が 10 回を超えたあたりから、「あー、はいはい、暑かった暑かった」と、わざわざ訂正するのが億劫になり、適当に答えてしまうようになっていました。



また、ベトナムの人々と交流する中で強く感じたのは、欧米の人のように活発に多くの人とすぐ打ち解けるというよりは、少しずつ会話を



重ねて距離を縮めていくようなコミュニケーションの仕方でした。会話を始めるときの距離感は、アメリカでよくあるような、誰に対しても距離が近く、多くのスキンシップがあるという感じではなく、「話しかけたいけれど、何を話せばよいかずっと考えている」ような印象を受けました。そのため、共通の話題が会話を通じて見つかったときにはとても楽しそうに話してくれて、最初は「あまり人と話したくないのかも」と思っていたものの、少し会話をすれば、とても面白い人たちばかりだと感じました。



ベトナムの市場では、私にとって人生で初めて値段交渉を経験しました。相手が提示した額をただ鵜呑みにするのではなく、そこから自分が払える金額を提示して交渉するという、日本ではなかなかできないような体験でした。市場で一番「来てよかった」と感じたことは、市場で働いている人の多くがいくつもの言語を扱えるということでした。多くの言語を扱えるというのは、それほどまでに自分の店の商品を売ることには本気であるということだと私は考えました。あの人たちは商品を買ってもらう

ために言語を習得し、どの商品が売れるかを考え、他の店で売れて



いるものをすぐに仕入れて真似し、交渉の技術を身につけて、一つでも多くの品を高く売ろうと模索していたのだと思います。その姿勢が、私にとってとても新鮮であり、日本では見ることのできない素晴らしいことだと感じました。（友人はぼったくられていましたが。）

以上が私のベトナム研修の感想です。また、機会があればベトナムへ再び行ってみたいと思います。同行してくださったチャムさん、潤さん、珠世先生、そして皆さまのおかげで、私のベトナム研修はとても有意義なものとなりました。心よりお礼申し上げます。同じ八千代町で暮らしている者同士、今後どこかでお世話になるかもしれません。そのような機会があれば、どうぞよろしくお願いいたします。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。（特に潤さん）





常総学院
高等学校
大里咲翔

今回のベトナム研修旅行は、僕にとって初めての海外

でした。飛行機に乗るのも初めてで、出発のときからかなり緊張していました。離陸の瞬間は少し怖かったけれど、雲の上の景色を見たら気持ちが落ち着きました。空港に着いて外に出たとき、日本とは違う空気を感じ、「いよいよ始まるんだ」と思いました。国内線の遅延で困っていたとき、ダラット出身のおじさんが声をかけてくれて、親切にいろいろ教えてくれたのがありがたかったです。初めての海外で不安もあったけど、そこで少し安心できました。

二日目はダラット大学で交流をしました。学生みんなは日本語がとても上手で、会話もスムーズにできました。思ったよりも早く打ち解けられて、友達も増えました。大学でのレクリエーションも盛り上がり、とても楽しかったです。午後に訪れたクーラン村では、昔のベトナムの生活を感じられて、日本とはまた違う雰囲気を知ることができました。



三日目はランビヤン高校を訪問しました。言葉は通じなかったけれど、すぐに仲良くなることができました。ジェスチャーゲームをやったときは、言葉がなくても伝わる事が多く、みんなで笑い合えたのが印象的でした。その後行ったランビアンランドでは、スライダーなどのアトラクションを楽しみました。日本にはないようなアトラクションで、ワクワクしました。



四日目は戦争証跡博物館を見学しました。展示されていた写真や資料から、戦争の悲惨さを強く感じました。今まで教科書でしか知らなかったことが、現地で実際に目にすると、受け止め方が大きく変わりました。その後行った市場では、初めて値切りに挑戦しましたが、うまくいかずに高い値段で買ってしまいました。少し悔しかったけれど、次に挑戦する機会があればもっと上手にやりたいと思いました。



五日目は、選択学習でベトナム料理を作りました。普段と違う食材や調理方法を体験



できて新鮮だったし、自分で作った料理はとておいしく感じました。午後はクチトンネルを訪れました。実際に地下に入るとかなり狭く、生きるために多くの工夫があったのだと感じました。戦争のことをより身近に考えるきっかけになりました。



五日間を通じて、教科書やネットで知ることと、自分の目で見たり体験したりすることの違いを実感しました。言葉が通じなくても仲良くなれること、人の温かさ、文化の違いなど、たくさんのことを学びました。初めての海外で不安もあったけれど、それ以上に新しい経験ができて本当に良かったです。この研修で学んだことを、これからの生活の中でも大切にしていきたいと思います。

下妻第一
高等学校
八城遥斗

今回のベトナム
派遣としてベト

ナムに行けると聞いて、最初は違う環境で生活できるか、現地であまく話せるか、不安でした。しかし、外国で暮らしてみたいと思っていたので、この機会に応募してみました。

事前研修で一緒にベトナムへ行く人たちが学生だと知り、話もよく合い、すぐに仲良くなれたのでよかったです。その時は「これからベトナムで一緒に過ごせる！」という楽しみで、不安も忘れ、胸が高鳴っていました。連想ゲームやジェスチャーゲームなど、交流に向けた準備の時間もとても楽しかったです。



8月19日、八千代町を出発し、ベトナムのホーチミンを経由してダラットへ向かいました。空港を出た瞬間から、日本とは違う街並みが広がって

て、たくさん走っているバイクや、周りで話されている言葉が日本語と違うことが本当に面白く、目を輝かせながら見たのを覚えています。



現地での交流の中で、特に印象深く、今でもよく思い出すのは、ダラット大学での連想ゲームです。みんなでお題を考えて答えを当てようと必死に考えていたことを覚えています。私のチームは負けてしまいました



たが、チームのメンバーと仲良くなれてよかったです。

大学の学生たちはみんな会話に積極的で、日本語での交流がスムーズにできたのが印象的でした。ダラット大学を紹介してくれた学生は、とても流暢な日本語を使ってい



て、冗談を言えるくらい余裕がある姿がカッコよかったです。彼らを見て、外国語を学ぶことの大切さを改めて理解できました。



また、ランビヤン高校での料理づくりも印象深

かったです。現地の人たちは、もち米と豚肉を大きな葉で包んで作る伝統料理・バインチュンを作っていて、私たちは天ぷらと味噌汁を協力して作り、皆で食卓を囲みました。もちろんそれらもおいしく、楽しい思い出でしたが、私にとって一番大切だったのは、現地の人たちとコミュニケーションをとる時間がとても楽しかったことです。言葉がうまく通じないときはジェスチャーをしたり、携帯の翻訳機能を使ったりしてなんとか意思疎通をしながら、それでも会話が弾み、「もっと話したい」と思うほどでした。



二つの学校、どちらも生徒たちがコミュニケーションに積極的に、「ここ

に来て本当によかった」と感じました。言葉の壁はあったかもしれませんが、学校で暮らす人たちの雰囲気や、感じたり考えたりすることは、どこでも同じなんだと親しみを覚えました。もしまたベトナムへ行く機会があれば、話せるベトナム語をもっと増やして、現地の人たちともっと深く会話してみたいです。そして、もしベトナムで出会った友だちが八千代町に遊びに来てくれたら、当時のメンバーでまた集まって、一緒に話したり遊んだりして交流したいです。





下妻第一
高等学校
大久保 壮真

私はこの夏、町の国際交流プログラムでベトナムを訪れる機会をいただきました。海外に行くのは初めて

で、飛行機に乗るときはとても楽しみな一方で、不安もありました。実際に現地に着いて最初に驚いたのは、ホーチミン市の活気でした。二人乗りは当たり前で、四人乗りなどもたくさんいるバイクの多さや、信号がないため、タイミングを見てみんなで一緒に道を渡るときのスリルは、日本では味わえないものでした。到着直後は驚きと少しの恐怖で戸惑いましたが、その混沌としたエネルギーに次第に魅力を感じるようになりました。



滞在中に訪れた地域の高校と大学での交流は、特に印象に残っています。大学では現地の学生と日本語で交流したり、校内を案内してもらったり、高校では一緒にベトナム料理や日本料理を作ったりしました。言葉の壁はありましたが、わからないところは翻訳アプリを使ったり、英語やジェスチ

ャーを交えたりしながら会話を重ねていくうちに打ち解け、笑い合えるようになりました。

日本の高校とは違う雰囲気を目にすることで、「自分の当たり前」は世界の当たり前ではないと実感しました。また、ベトナムの学生たちが日本文化に興味を持ち、「日本のアニメや



J-POP が好きだ」と話してくれたのが嬉しくて、少し身近に感じることができました。

もう一つ忘れられない体験が、クチトンネルを訪れたときのことです。

実際に狭い地下トンネルに入っていると、空気が重く、



膝について進まなければなりませんでした。そこにかつて多くの人々が暮らし、戦いを強いられていたことを思うと、胸が詰まるような気持ちになりました。展示され



ていた写真や武器の数々を目にしたとき、「平和に学校へ通い、友達と笑い合える日常」がどれほど貴重なものかを強く感じました。

ホーチミンでは現地の市場にも行きました。そこで驚いたのは、片言の日本語を話せる人が多いことでした。また、値切りに挑戦した場面では、私が言おうとしたことをうまく伝えられず、あまりうまくいかない経験もしました。しかし、翻訳アプリや



ジェスチャーを使って伝えようと努力することができました。

今回の交流を通して学んだのは、違いを楽しむ、受け入れることの大切さです。文化も言葉も習慣も違うからこそ、新しい発見がありました。ベトナムの学生と一緒に笑った時間や、ベトナム戦争の歴史に触れて考えたことは、私にとって貴重な体験となりました。帰国してからは、普段の生活を以前より大切に感じるようになりました。学校で友達と過ごす時間、家族と食卓を囲む時間も、「当たり前ではない」と思うようになりました。そして、いつかまたベトナムを訪れ、今度はもっと自分の言葉で交流できるように勉強したいと考えています。



この経験は、私の世界を大きく広げてくれました。違いを超えて人とつながれることの喜びを忘れず、これからも成長していきたいです。



下妻第一
高等学校
仲内 彩乃

1日目は、ほとんど移動でした。初めての海外で少し不安はありましたが、無事にベトナムに着いて安心しました。

ベトナムに着いてからダラットに行く飛行機で、大幅な遅延がありましたが、待っている間によりみんなとの仲が深まりました。

2日目は、まず朝食にバインミーを食べました。辛さ控えめでお肉などいろいろ



なものが入っていて美味しく食べることができましたが、昼食に食べたものは辛さ普通なのに私には辛く感じたので、現地の方は辛さに耐性があるのかなと思いました。ダラット大学では、始めに行ったテストで普段なんとなく話している日本語の難しさ



を感じました。また、私たちが難しく感じるのに、日本語を新たに学んでいるのはすごいと思いました。大学を案内してもらった時に女の子と腕を組むのはとても



驚きましたが、ベトナムの人たちは距離が近いということを知ったので、日本との違いを感じました。いろいろとお話をする中で、やはり日本のアニメやドラマなどが



出てきて、日本文化ってやはり世界で人気なんだなと思いました。

その後のクーラン村は自然の中で気持ちよく過ごせましたが、急な雨でほとんどのものを体験できずに残念でした。夕食では、ドクダミが出てきたことに一番驚きました。普段自分の家の庭に生えているものを食べられるのは初耳で、思った通りの味がしました。ナイトマーケットでは、まず人の多さに驚きました。いろいろなものが売っていて、日本では見ないものもあり、ずっときょろきょろしていました。朝になると道路脇のお店はたたんであって、毎日夜

になると出す作業をしているのは大変だろうなと思いました。



3日目は、ランビヤン高校との交流でバイ

ンチュンづくりの体験ができました。お米を使っていることもあり、日本みたいだなと感じました。言語が通じなくても身振り手振りでバインチュンを作ることができ、ベトナムの郷土料理の文化に触れることができとても嬉しかったです。

現地の人たちは、ものすごい速さで作っていてすごかったです。ベトナムと日本の料理はどちらもありましたが、お味噌汁も天ぷらも人気で嬉しくなりました。交流で日本の音楽が流行っていることがわかって、やっぱり日本の影響力は大きいのかなと感じました。ランビヤンランドでは、乗った滑る乗り物が怖かったんですが、とても楽しかったです。また、鯉の多さに驚きました。



は、お肉から海鮮まで出てきて美味しかったです。電車が見られなかったのが心残りでした。

水面に手を近づけたら寄ってくるので面白かったです。夕食のBBQ

4日目は、戦争証跡博物館で様々な写真や日本人の記者の話、戦争の脅威を感じました。

ベトナムの有名な MAROU のお店に行きましたが、内装がきれいで試食もあったので、自分にあった美味しさのチョコレートを買うことができました。ベントイン市場では、値切りに挑戦してみましたが、なかなか難しかったです。洋服から食べ物までたくさんあって、何をかうか迷いました。ホテルに一度帰ってから、ホテルの前を散策してみました。日本のコンビニがあったり、日本にはないハーゲンダッツのお店があったりしました。たくさんの人が集まっていて、楽しい空間でした。

5日目は、クチトンネルでの平和学習で戦争の時の様々な工夫や苦労がわかりました。トンネルでは、とても低くて暗く、少しの距離を歩くのが大変でした。当時の人は、より長い距離をより暗い中で歩いていたんだなと思うと、とてもすごく感じました。クチトンネルでは銃撃体験を行っており、大きな発砲音が聞こえて、日本ではなかなかできない体験だなと思いました。

最後に、このベトナム研修を通して、ベトナムの料理や遊



びなど様々な文化を知ることができ、とても思い出に残るものとなりました。



八千代
高等学校
寺田椿

初日の19日は、ホーチミン発ダラット着の便が遅れて、予定していたナイトマーケットには行けませんでした。でも、待ち時間に派遣団のみんなと人狼ゲームを何回かやることができたので、退屈になることはありませんでした。あと、ホーチミン空港のオレンジジュースが美味しかったです。

出店がありました。ドリアンの匂いが強烈すぎて、どこにいても匂いがしました。



3日目の21日は、現地の高校生との交流と、ガイド



2日目の20日は、現地の大学生と交流し、ナイトマーケットを散策しました。大学生との交流では連想ゲームと

日本語のテストをしました。連想ゲームでは負けてしまいましたが、テストでは高得点を取ることができて嬉しかったです。大学生と行ったクーラン村では、遊んでいると大雨が降ってきたので、建物の中で人狼ゲームをしました。私は見学していましたが、第三者目線で見ると人狼も非常に面白かったです。ナイトマーケット散策では、やはりベトナム特有の独特な匂いと不思議な

の有田さんの誕生日でした。互いの料理を協力して作りました。日本食としては味噌汁と天ぷらを作り、私は味噌汁を担当しました。日本人特有であろう「豆腐を手のひらの上で切る」というやり方をしてから作りました。自宅から顆粒だしと粉末状の煮干しを持参していたので、出汁入り味噌だけのものより美味しく作れたと思います。ベトナム料理のほうは、揚げまんじゅうが美味しくて好きでした。



夜に行った有田さんの誕生日会では、みんなで歌ってたくさん話し、ケーキを食べました。ケーキに少し酸味を感じたので、ジャムはきっとアプリコットか何かだったと思います。そのあとは、有田さんや大久保くん、大里くん、中井くん、仲内さん、生井さんと、蹴鞠と羽付きを足して二で割ったようなもので遊びました。



4日目の22日は、ダラットからホーチミンへ移動しました。ダラットで食べる最後の朝ごはんでは、ミートソースやフランスパンなどを食べました。この飛行機もやはり遅れて、予定より2時間ほどずれてしまいました。そのおかげで、またみんなと人狼ゲームができたので、まあ良しとしようと思いました。



ホーチミンでは雨が多く、市場に行くのが少し大変でした。市場では、仲内さんとシミラールックのアクセサリーと、色違いでおそろいの「I♥VIETNAM」シャツを購入しました。近くの高級チョコのお店で、カカオ70%のチョコを2枚買いました。夜は雨が止んだので、ホテル周辺を散策しました。晩御飯の後でしたがマックが食べたかったので行ったら、現金不可であったため断念しました。なので、ハーゲンダッツのお店でアイスクリームを買って食べました。そして、ファミリーマートでザボンを買って、ホテルで食べました。

4日目の23日は、アオザイ体験とクチトンネル見学をしました。アオザイを着て教会などの建物を回って写真を撮りました。



私はピンクのアオザイを着て、ツインお団子にしてもらいました。お互いのスマホで撮ったり、現地のガイドさんに撮ってもらったり、引率の大塚先生にも撮ってもらいました。

クチトンネルと平和記念館では、戦争の悲惨な状態を見て胸が苦しくなりま

した。平和記念館には、ひどい状態の写真やその後の影響の写真もありました。



ベトナムで食べる最後のご飯は、店員さんに焼いてもらう焼肉でした。高そうなお肉



をおなかいっぱいになるまで食べ、ご飯もたくさん食べました。そして、やっぱり飛行機は遅れました。なので、また皆で人狼ゲームをして時間をつぶしました。

最終日の24日は、飛行機に乗っただけでした。ホーチミン発成田着の0時過ぎの便に乗って日本へ帰国しました。早朝4時半頃に機内食が配られ、写真は残っているのですが、眠すぎたのか食べた記憶はありませんでした。写真によれば、クロワッサンとタレのかかった鶏肉、そして白米とリン

ゴだったようです。きちんと意識のある中で食べたかったものです。

全日程を通して分かったことは、ベトナム人は友好的であり、好奇心が旺盛だということです。大学で校内探検をしたときは、大学四年生のニューちゃんが手をつないでくれました。初対面のはずだったのに、何年も仲の良い友達のように接してくれました。そして、空港では大里くんがいろいろな人に話しかけられていたのが印象的でした。きっと人に好かれやすいオーラか何かが出ているのではないかと思います。

私の気になっていた民族衣装のアオザイは、男女で作りが異なっていました。女性ものは生地が薄めのもが多く、華美でレースや装飾で覆われたものが多かったです。男性ものは柄があるものの、どちらかといえばシンプルで、生地は少し厚めの印象でした。



今回のベトナム海外交流派遣団の研修は、楽しく思い出に残ることが多かったため、また次の機会に参加できるようであれば、ぜひ参加したいと感じました。